

しあわせ信州創造プラン【佐久地域編】の評価について

平成 30 年 10 月
佐久地域振興局

キャッチフレーズ

輝く個性と地域の力 交流で未来を拓^{ひら}く信州佐久

総合分析

- ・計画期間中（平成 25 年度～平成 29 年度）、しあわせ信州創造プラン「佐久地域編」では、「輝く個性と地域の力 交流で未来を拓（ひら）く信州佐久」をキャッチフレーズに掲げ、5つの地域プロジェクトを推進しました。
- ・地域編に掲げた 10 の達成目標について、計画最終年度（平成 29 年度）の目標に対しての実績は、6 目標（60%）が「達成」、3 目標（30%）が「未達成」となりました。なお、1 目標（10%）「人口 10 万人当たり医療施設従事医師数」については、隔年調査のため平成 29 年度の実績値はないものの、平成 28 年度の実績値が平成 29 年度の目標値を上回っています。
- ・以上を踏まえると佐久地域編は「概ね順調」に進捗しました。

① 「つながり」と「交流」の創出による活力ある地域・人づくりプロジェクト

地域プロジェクトの進捗状況

- ・北陸新幹線金沢延伸や中部横断自動車道の八千穂高原 IC までの延伸の機会を捉え、地域での人や物の交流拡大を図るため、中部横断自動車道からのアクセス道路等の整備、観光誘客の促進、移住・交流の推進、住民が取り組む地域づくり活動の支援などに取り組みました。
- ・達成目標「観光地利用者数」については、信州 DC（デスティネーションキャンペーン）の開催や道路の渋滞対策等が図られたことから、白駒の池・苔の森への誘客が促進し、平成 29 年の目安値を上回り、計画期間中も順調に推移し目標を達成しました。
- ・達成目標「都市農村交流人口」については、都市農村交流活動が堅調で、平成 29 年度の目安値を上回り、計画期間中も順調に推移し目標を達成しました。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○達成：H29において目標値以上 ○未達成：H29において目標値未満
○順調：目安値以上 ○概ね順調：80%以上100%未満の進捗
○努力を要する：80%未満の進捗 ○実績値なし：今年度実績値がでない

指標名	年度	単位	基準値 (H24年)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年)
観光地利用者数	目安値	万人	1,434	1,435	1,475	1,500	1,510	1,520
	実績値			1,451 (H25年)	1,478 (H26年)	1,503 (H27年)	1,495 (H28年)	1,540 (H29年)
	進捗区分			順調	順調	順調	概ね順調	達成
	進捗状況の分析	平成28年度は天候不順や浅間山火山警戒レベルの引上げ後の影響等により観光地利用者数が減少となりましたが、平成29年度の信州DC（デスティネーションキャンペーン）の開催で白駒の池・苔の森が注目される等、当地域への誘客促進が図られ、目標を達成しました。						
【目標設定理由】 平成24年実績見込みから5%増加を目標に設定	今後の取組	信州デスティネーションキャンペーンを契機に佐久地域の魅力である「美しい星空」や「健康（歩く）」をテーマとする誘客活動を推進します。						

指標名	年度	単位	基準値 (H23年度)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年度)
都市農村交流人口	目安値	人	52,517	53,500	54,500	55,300	56,200	57,000
	実績値			54,560 (H25年度)	59,286 (H26年度)	62,540 (H27年度)	68,179 (H28年度)	66,610 (H29年度)
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	達成
	進捗状況の分析	農業への関心の高まり、体験型の交流活動や観光へのニーズの上昇を背景に、都市農村交流活動が堅調となり、目標を上回る成果が得られました。						
【目標設定理由】 過去の増加傾向をもとに設定	今後の取組	都市農村交流活動に取り組む市町村への支援制度の周知、市町村や公共的団体が住民と協働して取り組む地域資源を活かした活動への支援などを通じ、今後も都市農村交流活動を促進します。						

平成29年度の主な取組の状況

● 道路ネットワークの整備推進等による「つながり」の構築

- 中部横断自動車道佐久南 IC 以南の開通に合わせ、各 IC へのアクセス道路整備として、(国)142号の4車線化、(国)299号の歩道整備及び交差点改良、県道下小田切バイパスの各工事が完成し、供用開始しました。また、関連する市町村道の改良支援などにより道路ネットワークの整備を進めました。
- 北陸新幹線の金沢延伸や観光列車 HIGH RAIL1375 の運行を契機と捉え、JR 小海線やしなの鉄道の活性化に向けて、沿線地域の魅力発信を元気づくり支援金により支援しました。
- 地域の農産物流通や生活交通の改善のため建設を進めている佐久南部地区広域農道について、小海区間 0.9 km の工事を実施し、予定していた小海町八郡池の高原野菜の生産団地区間約 3.8 km が供用開始しました。

● 「交流」を核とする賑わいと活力ある地域づくり

- 信州 DC の開催にあたり首都圏等での観光キャンペーンや観光客の受入体制の整備を行うとともに、JR 小海線の観光列車や美しい星空等地域の観光資源を活かした誘客に取り組ましました。
- 白駒の池・苔の森を魅力ある観光地とするため、小海町、佐久穂町及び諏訪地域振興局と連携し、シャトルバスの運行や情報発信、交通案内看板の設置により白駒の池周辺の渋滞緩和を図りました。
- 県外に住む子育て世代の方を対象に、都市生活と田舎暮らしが併存している佐久地域の多様性を知ってもらうため、市町村と連携した移住セミナーや移住体験ツアーを実施しました。
- 地域産業の活性化を図るため、市町村等と情報を共有しながら、連携して企業の誘致や設備投資の支援に取り組ましました。

● 地域の未来を担う「人」づくり

- 固有の地域資源を活かした元気な地域づくりを進めるため、市町村や公共的団体が住民と協働で取り組む様々な分野の活動(67事業)を支援しました。
- 医療・福祉分野の事業の創出・集積を図るため、工業技術総合センターと連携しながら歩行状態の計測機器やウォーキング用ポールの普及に向けた取組みを支援しました。

② 自然と共生する「サステナブル[※]・エコロジーエリア」形成プロジェクト

※ サステナブル：持続可能な

地域プロジェクトの進捗状況

- ・豊富な地域資源を有効に活用しながら、人々の知恵により持続可能な社会を構築し、地域の豊かな自然環境とともに後世に引き継いでいくため、計画的な森林整備、自然エネルギーの普及促進、廃棄物の減量化などに取り組みました。
- ・達成目標「新規自然エネルギー事業数」については、平成29年度を目安値を上回り、計画期間中も順調に推移し目標を達成しました。
- ・達成目標「民有林の間伐面積」については、地域の主要樹種であるカラマツ林の成熟及びカラマツ材の需要増に伴い森林施業は間伐から主伐へのシフトが進み、結果、目標は未達成となりましたが、計画期間中は概ね順調に推移しました。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○達成：H29において目標値以上 ○未達成：H29において目標値未満
○順調：目安値以上 ○概ね順調：80%以上100%未満の進捗
○努力を要する：80%未満の進捗 ○実績値なし：今年度実績値がない

指標名	年度	単位	基準値 (H24年度)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年度)
新規自然エネルギー事業数	目安値		0	4	6	8	9	10
	実績値	事業		4 (H25年度 単年)	10 (H25～26年 度累計)	12 (H25～27年 度累計)	12 (H25～28年 度累計)	12 (H25～29年 度累計)
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	達成
	進捗状況の 分析	市町村及び自然エネルギー佐久地域協議会との連携などを通じて自然エネルギーの普及啓発を図っており、目標を達成しました。						
【目標設定理由】 年2か所程度の新規事業者の増加を見込み設定	今後の取組	今後とも、更なる普及啓発に努めていきます。						

指標名	年度	単位	基準値 (-)	H25	H26	H27	H28	目標 (H25～29 年度累計)
民有林の間伐面積	目安値		0	3,100	5,800	8,300	11,000	12,900
	実績値	ha		2,821 (H25年度 単年)	5,471 (H25～26年 度累計)	7,019 (H25～27年 度累計)	8,839 (H25～28年 度累計)	9,639 (H25～29年 度累計)
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	概ね順調	概ね順調	未達成
	進捗状況の 分析	カラマツ林の着実な成熟に伴い森林整備の内容が、間伐から主伐へと急激に移行しています。 この結果、森林整備は実施しているもの、主伐の面積が増加し、間伐の面積は減少していることから、間伐の目標面積の実施に至りませんでした。						
【目標設定理由】 県で策定する間伐総合対策第8期計画による	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の充実に伴い、新たな計画においては、間伐の実施面積から丸太の出荷量へと目標を変更して取り組んでいきます。 ・森林整備と併せ、伐採跡地の確実な更新とそこから搬出される木材の利用拡大が課題となっています。 ・森林作業道等の基盤整備支援とともに、林業が持続的に展開するよう森林経営計画の策定支援と森林資源の平準化を進めています。 						

平成 29 年度の主な取組の状況

● 未来につなぐ豊かな自然環境・資源の保全

- 地域の豊かな森林を後世に引き継いでいくため、約 800ha の間伐と約 72ha の主伐を実施するとともに、70ha のカラマツや広葉樹等の植栽を実施しました。
- 野生鳥獣から農作物や造林木を守るため、被害額の約 8 割を占めるニホンジカ 5,800 頭を捕獲しました。
- 豊かな水資源を将来にわたり享受できるように水資源保全地域として 1 地域が指定されるとともに、「佐久圏域水道事業広域連携検討会」を通じて水資源の保全に関する情報共有を行うなど総合的な推進を図りました。
- 農業・農村の有する多面的機能が維持・発揮されるよう、農地や農業用水といった地域資源を保全するための地域の共同活動（55 組織）を支援しました。

● 恵まれた資源を活かした自然エネルギーの普及促進

- 自然エネルギーの普及啓発を図り、「2017 環境フェア in 佐久」を開催したほか、自然エネルギー佐久地域協議会等との共催により「夏休みエコキッズツアー」を実施しました。
- 豊かな自然エネルギー資源を活用した自然エネルギー事業の創出や地域づくりを推進する「1 村 1 自然エネルギープロジェクト」として、新たに 4 事業を登録し広く PR しました。
- 地域と調和した再生可能エネルギー事業の促進を図るため、「再生可能エネルギーに係る佐久地域連絡会議」を設置し、現状と課題について情報共有しました。
- 地域資源である木質バイオマスの利用促進を図り、ペレットストーブ(13 台)、ペレットボイラー(2 台)の導入を支援しました。
- 民間活力による農業用水路を活用した小水力発電所が完成しました。(1 箇所)

● 環境負荷の少ない未来まで持続可能な循環型社会の構築

- 二酸化炭素吸収源としての森林づくりを進めるため、間伐や主伐後の植栽を実施しました。
- 環境にやさしいライフスタイルへの意識を深める契機とするため、店頭啓発(4 回)を行うとともに、マイバッグ持参率調査(2 回)を実施しました。
- 産業廃棄物の排出抑制、再利用、再生利用及び適正処理に自主的に取り組んでいただくため、長野県産業廃棄物 3 R 実践協定を 25 事業者と締結しています。

③ 「世界品質の農畜産物総合供給基地」構築プロジェクト

地域プロジェクトの進捗状況

- ・全国有数の野菜産地として発展してきた佐久地域の農業を重要な産業として一層発展させていくため、競争力と持続性の高い産地づくりや産地ブランドの再構築、多様な担い手の確保・育成、畑地かんがい施設の整備等に取り組みました。
- ・達成目標「農産物産出額」については、平成 29 年は目安値を大きく上回り、計画期間中も平成 25 年を除いて順調に推移し目標を達成しました。
- ・達成目標「基幹的畑地かんがい施設の整備面積」については、計画期間中は目安値を下回る年度もありましたが、平成 29 年度は目安値を上回り、目標を達成しました。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○達成：H29において目標値以上 ○未達成：H29において目標値未満
 ○順調：目安値以上 ○概ね順調：80%以上100%未満の進捗
 ○努力を要する：80%未満の進捗 ○実績値なし：今年度実績値がない

指標名	年度	単位	基準値 (H22年度)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年度)
農産物産出額	目安値	億円	527	531	533	535	537	540
	実績値			497 (H24年)	590 (H25年)	597 (H26年)	648 (H27年)	612 (H28年)
	進捗区分			努力を要する	順調	順調	順調	達成
	進捗状況の分析	平成28年の農産物産出額の64.5%を占める野菜生産は、春先から5月まで高温少雨で推移し、8月下旬から9月下旬にかけ、降雨、寡照条件が続き、生育停滞や品質低下、病害の発生が多く産出額は減少しました。また、コメは作況指数99「平年並み」となり、産出額は前年並み、果樹は好天に恵まれ産出額は増加しました。全体として農産物産出額は、目標値を大きく上回りました。						
【目標設定理由】 平成22年度実績から2.5%増加を目標に設定	今後の取組	野菜は白菜などの適正生産と新しい品目の導入拡大、果樹は県オリジナル品種の導入、花きはプライダル需要への対応など、マーケットインの生産に努めます。						

指標名	年度	単位	基準値 (H23年度)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年度)
基幹的畑地かんがい施設の整備面積	目安値	ha	1,068	1,150	1,231	1,313	1,456	1,500
	実績値			1,123 (H25年度)	1,254 (H25～26年 度累計)	1,310 (H25～27年 度累計)	1,310 (H25～28年 度累計)	1,530 (H25～29年 度累計)
	進捗区分			努力を要する	順調	概ね順調	努力を要する	達成
	進捗状況の分析	南牧地区（南牧村）では、海ノ口工区220haの畑地かんがい施設が完成し、これにより目標を達成しました。						
【目標設定理由】 国庫補助事業による期間内整備面積の積上げ	今後の取組	継続地区の事業を進めるとともに、整備に必要な国予算の確保に努めます。						

平成29年度の主な取組の状況

● 競争力の高い農畜産物の生産振興・販売体制の強化

- 多様なマーケット需要に対応できる産地・流通体制を構築するため、野菜予冷施設（2か所）、野菜定植機（2台）、キクの省力機械（4台）の導入を支援しました。
- 畜産農家の生産意欲高揚を図るため、行政機関やJA、畜産関係機関が一体となって設立した畜産クラスター協議会を主体に、北佐久地域の畜産振興の底上げを図りました。
- 農山村の地域資源を活かした6次産業化により農林水産業の新たな付加価値を創出するため、地域推進員と連携し事業化に向けた支援（相談件数23件）しました。
- 地消地産を進めるため、ホテル等の宿泊施設の関係者に生産農家を巡るバスツアー及び地元食材を活用したメニューの提案会を実施するとともに提案会のメニューのレシピ集及び生産農家を紹介したリーフレットを管内宿泊施設（530施設）に配布し、広く地元食材や地酒の魅力を発信しました。

● 意欲ある農業経営体の確保・育成

- 地域農業の担い手となる経営体を育成するため、経営規模拡大に必要な農業用機械等の導入（2経営体）を支援しました。
- 農業への新規参入者の確保・定着を図るため、里親研修制度により就農希望者（4名）を支援しました。
- りんご産地の維持・発展を図るため、市町村、JA等と連携し就農相談会の参加（3回）や研修生の受け入れなど意欲ある経営体の確保・育成に向けた支援をしました。

●基幹的畑地かんがい施設の計画的整備

- 畑地帯における農業生産性の向上及び合理化を図るため、3地区において県営畑地帯総合土地改良事業を実施しています。
- ・南牧地区（南牧村）では、海ノ口工区 220ha の畑地かんがい施設が完成しました。
- ・原地区（川上村）では、農道や排水路の整備を実施しました。
- ・居倉大深山地区（川上村）では、畑地かんがい管水路の整備を実施しました。

④ 誰もがいきいきと安心して暮らす「健康長寿」の地域づくりプロジェクト

地域プロジェクトの進捗状況

- ・地域に根ざした保健予防活動や健康長寿への関心の高さを活かしながら、高齢者や障がい者を地域ぐるみで支え、安心して子育てができるなど、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを進めるため、地域包括ケアシステムの構築・深化や生活習慣病対策の推進に取り組みました。
- ・達成目標「食育ボランティア数」については、市町村と連携して養成講座を開催するなど食育ボランティアの増員を図りましたが、高齢化に伴い活動が困難になった会員等の離脱者数が加入者数を上回ったことから、計画期間中は目安値を下回り、目標の達成は困難となりました。
- ・達成目標「人口 10 万人当たり医療施設従事医師数」については、隔年調査のため、平成 29 年については実績値なしとなりますが、直近である平成 28 年（平成 29 年 12 月公表）には診療所の増加に加えて、医療機関による医師確保の取組が進んだことにより、目安値を上回る実績となり、「順調」となりました。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○達成：H29 において目標値以上 ○未達成：H29 において目標値未満
 ○順調：目安値以上 ○概ね順調：80%以上 100%未満の進捗
 ○努力を要する：80%未満の進捗 ○実績値なし：今年度実績値がでない

指標名	年度	単位	基準値 (H23年度)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年度)
食育ボランティア数	目安値	人	4,584	4,656	4,692	4,728	4,764	4,800
	実績値		4,334 (H25年度)	4,327 (H26年度)	4,102 (H27年度)	4,137 (H28年度)	4,419 (H29年度)	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	努力を要する	未達成
	進捗状況の分析	平成25年度から減少が続いていた食育ボランティア数は、実績値が一番低かった平成27年度に比べ317人増加しました。また、平成28年度と比較し、新規3団体249人、会員が増加したのは6団体192人増、会員が減少したのは6団体113人減、会員数が増えなかったのは12団体となっています。会員が減少している団体は、高齢化に伴い活動が困難になった会員の離脱等が減少の理由として考えられます。						
【目標設定理由】 県全体の増加人数の目標（2662人、長野県食育推進計画（第2次））を佐久地域の人口に当てはめ	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村と連携し、住民が集まりやすい場所で食生活改善推進員養成講座を開催するとともに、ポイント制による受講制度を導入するなど、食育ボランティアでもある食生活改善推進員の増員を図ります。 ・市町村及び関係機関に、食育ボランティアの養成・活動の支援とともに地域で活動している団体の掘り起こしを働きかけます。 						

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○達成：H29において目標値以上 ○未達成：H29において目標値未満
 ○順調：目安値以上 ○概ね順調：80%以上100%未満の進捗
 ○努力を要する：80%未満の進捗 ○実績値なし：今年度実績値がない

指標名	年度	単位	基準値 (H22年)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年)	
人口10万人当たり医療施設従事医師数	目安値	人	210.1	216.7	216.7	223.3	223.3	230.0	
	実績値			—	223.8	—	236.9	—	
	進捗区分			実績値なし	順調	実績値なし	順調	実績値なし	
	進捗状況の分析	平成26年については、佐久医療センターの開設等により、目安値を上回る状況となっています。平成28年については、診療所の増加に加えて、医療機関による医師確保の取組が進み、目安値及び目標を上回る結果となりました。なお、平成27、29年は隔年調査のため、実績値はありません。							
【目標設定理由】 県設定目標値を目標として設定（平成29年の全国平均見込みに近づけることを目標として設定）	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・佐久地域の病院が行う臨床研修に協力するなど、医師に対して佐久地域での従事を働きかけます。 ・医学部生の保健福祉事務所実習に協力するなど、医学生に対して佐久地域での従事を働きかけます。 ・地域医療連携の推進等により医師負担の軽減を図り、医師の定着を進めます。 							

平成29年度の主な取組の状況

● 住民が皆で支え合う住みやすい地域づくり

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要な地域包括ケアシステムの深化に向け、実務担当者等による会議の開催や市町村が開催する検討会への参加等を通じ、各市町村の仕組みづくりを支援しました。
- 特別養護老人ホームの入所待機者の解消に向け、「うすだコスモ苑（移転改築・定員30人増・H28、29年度事業）」及び「こうみの里（移転改築・定員10人増）」の整備を支援しました。
- 安心して子育てができる環境を整備するため、市町村が行う放課後児童健全育成事業など、多様な子育て事業に対して支援しました。
- 一場所多役の子どもの居場所づくり”信州こどもカフェ”を推進するため、平成28年度に諏訪とともにモデル的に他地域に先行して構築された佐久地域こども応援プラットフォームにおいて、子ども支援活動を行う団体等の活動向上とネットワーク構築を支援しました。

● 皆が健康で長生きできる暮らしの実現

- 地域における主体的な健康づくりを推進するため、「佐久地域保健・職域保健連携推進協議会」を開催し、関係機関・団体等の連携や今後の具体的な活動等について協議しました。
- 地域の食育関係者が一丸となって取り組む減塩キャンペーンを関係者の連携と協力により地域全体で展開しました。
- 地域住民の健康づくりを推進するため、課題解決に向けた活動を企画・実践できる食生活改善推進員の養成研修会（4回）、育成研修会（3回）を開催しました。

● 地域医療の充実による安心の提供

- 医療の諸課題に対し地域の実情に即した対応策を講じるため、災害・救急医療、小児救急、医療連携などをテーマに地域医療を検討する会議（9回）を開催しました。
- 介護保険利用者等が入退院する際の、医療機関と介護事業者の情報共有に関する連携の充実を図るため、実務担当者等による検討会（3回）を開催し、連携の仕組みづくりを進めました。
- 医療従事者の地域への定着を図るため、病院が実施する臨床研修を支援したほか、看護師養成学校での講義・実習や医学部学生の保健福祉事務所での実習に協力しました。

⑤ 災害に強い「安全と絆」の地域づくりプロジェクト

地域プロジェクトの進捗状況

- ・国内でも有数の活火山である浅間山の大规模噴火に備えた対策を推進するなど、災害に強く安全に暮らすことができる地域づくりを進めるため、平成28年度は、土砂災害や大规模地震など自然災害に備えた対策、地域の防災力の向上に取り組みました。
- ・達成目標「土砂災害警戒区域等指定率」については、平成29年度の実績値が目安値のとおりとなり、計画期間中も順調に推移し目標を達成しました。
- ・達成目標「自主防災組織の組織率」については、平成27年度に自主防災組織の基準を見直した自治体があったため、これ以降目安値を下回り、結果、目標の達成は困難でしたが、その他の市町村では順調に推移しています。なお、自主防災組織数は大きく増加しています。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○達成：H29において目標値以上 ○未達成：H29において目標値未満
 ○順調：目安値以上 ○概ね順調：80%以上100%未満の進捗
 ○努力を要する：80%未満の進捗 ○実績値なし：今年度実績値がでない

指標名	年度	単位	基準値 (H23年度)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年度)
土砂災害警戒区域等指定率	目安値	%	74	74	93	98	99	100
	実績値			74 (H25年度)	93.1 (H26年度)	100 (H27年度)	100 (H28年度)	100 (H29年度)
	進捗区分			順調	順調	順調	順調	達成
	進捗状況の分析	平成27年度に、御代田町ほか8市町村において区域指定を行い、目標を達成しました。						
【目標設定理由】 5か年計画の最終年には管内全て指定が完了するように計画	今後の取組	今後は、概ね5年毎に見直しを行う2巡目の基礎調査を順次行っていきます。						

指標名	年度	単位	基準値 (H23年度)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29年度)
自主防災組織の組織率	目安値	%	71.0	81.2	83.4	85.6	87.8	90.0
	実績値			81.5 (H25年度)	83.7 (H26年度)	80.0 (H27年度)	83.4 (H28年度)	84.7 (H29年度)
	進捗区分			順調	順調	努力を要する	努力を要する	未達成
	進捗状況の分析	自主防災組織の組織率は増加していましたが、平成27年度に算出方法を見直した自治体があったことと、管内市町村の世帯数が大幅に増加したことから実績値が低下しました。しかし、平成28・29年度は、27年度に算出方法を見直した自治体において地元区と消防団の連携により自主防災組織づくりが進展しており、組織率が向上しています。						
【目標設定理由】 平成23年度の佐久管内市町村の組織率平均値71.0%を、全県平均値の90%まで引き上げ	今後の取組	佐久地域防災対策連絡協議会において各市町村の取組状況を共有し、組織率の低い市町村に対し助言していきます。						

平成 29 年度の主な取組の状況

● 安全な暮らしを築く防災・減災対策の推進

- 「浅間山火山防災協議会」において、市町村避難計画の作成に取り組むとともに、大規模噴火における現象と、その範囲を示すハザードマップを作成・公表しました。
- 山地災害から住民の生命・財産を守るため、治山事業を実施し、危険地区を有する集落の周辺森林(10 か所)を保全しました。
- 土砂災害から住民の生命・財産を守るため、砂防事業等を実施するとともに、軽井沢町において土砂災害防止法に基づく追加の基礎調査を行いました。
- 地震による既存建築物の倒壊から県民の生命及び財産を保護し、被災時の被害の軽減を図るため、市町村と連携しながら、対象建築物の耐震診断、耐震改修を働きかけました。
- 農業生産の維持、農業経営の安定や地域住民の暮らしの安全を図り、災害に強い農村づくりを推進するため、総合的な防災・減災対策（2市1町）を実施しています。

● 住民の「絆」が支える災害に負けない地域づくり

- 地域防災力の向上を図るため、市町村に自主防災組織の組織率向上に向けた取組を依頼するとともに、消防団の充実・強化に向け、地区消防協会による研修や訓練などを実施しました。